



中川橋を渡る「かつぎだんじり」(大正時代)

協 力 久世神社 朝日神社 鍋屋八幡神社 三榮神社 惣八幡神社  
 久世祭りだんじり保存会

発 行 久世祭りだんじり振興会  
 HP [久世祭りだんじり.com](http://kyuseimatsuri-danji.com) 検索 久世だんじり振興会

お問い合わせ 真庭市産業政策課 TEL.0867-42-1033  
 真庭観光連盟 TEL.0867-45-7111

五 社				
久世神社	朝日神社	鍋屋八幡神社	三榮神社	惣八幡神社
往古は形部神社と称し、後に生建大明神と改称、明治6年2月久世神社と改称した。	美作古社12社の内、久世郷の総氏神であって、特に、攘疫除災の信仰があった。	保安元年に鍋屋村の土産神社として、山城国石清水八幡宮から勧請。	後醍醐天皇正中2年38社を勧請する神社と伝えられてから三十八社と称していた。	文治年間男山八幡宮を勧請し、旧真島郡惣村外十二ヶ村の大氏神として信仰されている。



久世祭りフォトコンテストより  
 平成28年 特選作品



戦いを終え、お互いの健闘と、来年、また同じ場所で会う約束を皆で誓い合うフナーシは、見る者を感じさせる。鳴り響く半鐘と太鼓の「けんか囃子」が、深まる秋の夜に、祭りの名残と余韻をいつまでも続かせてくれる。

情 熱

出雲街道と伯耆街道が交差し、宿場街と牛市で栄えた真庭市久世地区。繁栄の面影が残る山里の街筋は、年に一度、活気に満ちた姿を取り戻す。立ち並び、露天の間を、五社の御神輿が練り歩き、賑やかなだんじりがお供する『五社御祭礼』。幾世代に渡り受け継がれ、そして、次世代へと熱き心が久世の街を情熱の街と化する。

余 韻



郷の総氏神に郷内の氏神社の御神輿が参集して合同祭典を行う祭礼式は、古くから郷ごとに行われていた。久世郷においては、元禄4年、久世郷で生建(久世)神社、黒尾天王宮(朝日神社)、鍋屋八幡神社、山久世八幡神社、三坂三十八所(三榮)神社の五社が合同祭典を行った旨の文献が残っている。明治以降町村制の施行に伴う郷の解体などによる理由で一般的には行われなくなったものの、久世郷内の氏神の合同祭礼「五社御祭礼」は、古式に則り現在も傳承されている。

伝 承

昼間、御神輿の護衛役として付き添った供奉だんじりは、夜は一転。姿をあらわにし、町の誇りスタイルを賭け、激しくぶつかり合う『だんじり喧嘩』に挑む。火花が飛び散ることさえあるぶつかり合いは、だんじりが大きくうねり、まさに躍動する姿に息を飲む。

躍 動

